

“鉄より堅く逞しき”

生徒指導通信 第21号
令和3年10月4日発行
黒沢尻工業高等学校

○ “義を見てせざるは勇なきなり”

論語に“義を見てせざるは勇なきなり”という言葉があります。これは、「人として正しいことと知っ
ていながら実行しないのは、本当の勇気がないからだ」という意味だそうです。

日常生活やスポーツの中で、「分かってはいるけど、できない」「やろうとは思っているけど、やらない」
と言いついてしまう人がいます。もしかすると、やることの目標が高すぎたり、最初からできないと決
めつけてはいませんか？

「どんな自分になりたいだろう？」「理想の自分に近づくために、今できることは何だろう？」と、自
分に問いかけ、答えとして生まれた行動を実際に実践してみてもはどうでしょうか。

例えば、「練習に集中して取り組む」「人の嫌がることをしない」「ゴミを見掛けたら必ず拾う」「道具を
丁寧に扱う」等、自分でやろうと決めたことをしっかり行動に移し、実践し続ける。

そうすることによって、様々な場面で自分の実力を発揮することにためらいが無くなり、積み重ねが
意志の強さを磨き、自信を育んでくれます。

**“練習後、家に帰って、次の日のために食事をしっかりと摂って、ストレッチをやって、十分な睡眠
を取る。こうした当たり前のことを、規律がある選手は何も言わなくてもできるけれど、規律がな
い選手はできないのです。規律が守られてこそそのパフォーマンスではないでしょうか。”**

by エディ・ジョーンズ（元ラグビー日本代表監督）

子どもや選手には、しっかりやるように言うてはいるものの、我々大人も気をつけたいものです。“子
は親の鏡”であり“生徒は先生の鏡”でもあります。我々大人も「正しい」と信じていることを行動に移
して実践する必要があるでしょう。

○後悔のエネルギーを力にしよう！

後悔には2つの種類があります。“やらずの後悔”は、
やる前に自分を低く評価してしまうもので、「後悔する
な！」と言われる所以です。逆に、「あの時、もっとやっ
ていれば・・・」「しっかり続けていれば・・・」のよう
に、“やった後の後悔”は、ちょっと立ち止まって見つめ
てみると、それが自らのエネルギーになっていることもあるかも知れません。

「あのとき、もっとこうしていれば・・・」を、「次は、こうしてみよう！」のように、過去
の後悔を未来へのエネルギーに変えてみる。そうすることで、失敗をした経験があるからこそ、成長が待っている
とも言えます。

本気になる。本気でやる。言葉で言うのは簡単です。しかし、本当に気持ちを込めるには、どうしても
それなりの体験が必要です。それは悔しい感情かも知れませんが、挫折の経験かも知れませんが、「後悔し
ないように」「失敗しないように」という考え方も大切ですが、失敗した経験があるからこそ、成長と次
の成功を引き寄せられるのかも知れません。

今年度の黒工祭では、クラス企画やステージ発表、またはルールが分からないニュースポーツ等、慣れ
ないことにチャレンジする機会を得ています。当然、失敗という経験も待ち構えています。多少なりと
も、後悔することになるかも知れませんが。

後悔することにネガティブなイメージを持つよりも、ポジティブな考え方に立って後悔を未来へのエ
ネルギーに変えましょう。そういった意味でも、今回の黒工祭は大きなチャンスです。これからの10日
間を大いに愉しみましょう！



「いのちの尊さ、大切さ教室」について

9月8日（水）に開催した「いのちの尊さ、大切さ教室」のアンケート結果が岩手県警察本部から送られてきました。皆さんが書いてくれた感想を紹介します。参考にしてみてください。

（1）「生きること」に関連する記述

初めて犯罪被害で身内を亡くした人の話を聞いて、他人事ではないし、いつ起こるか分からない怖さがあるのを感じました。もし、自分がそういう被害に遭った場合、自分はどうなるのか、少し心配になりました。また、講師の方が言っていた「加害者が出なければ被害者も出ない」という言葉が胸に刺さり、自分も気を付けなければいけないと思いました。そして、相手の気持ちも考えて生活していきたいと思いました。（2年男子）

家族を亡くすこと自体がとても辛いことなのに、犯罪によって亡くなってしまうのは、本当に辛いことだと思いました。私自身、交通事故に遭ったことがあり、命が助かったのは本当に幸せなことだと思いました。改めて、命の大切さが理解できたので、これからも命を大切にしていきたいです。ぜひ、より多くの人に講演をし、たくさんの方が命を大切に、世の中を変えてほしいと思いました。（3年男子）

（2）「いのちの大切さ」に関連する記述

命の尊さ、家族や身近な人達の大切さが分かりました。今までの自分は親に反抗ばかりしていたけれど、人はいつ亡くなってしまうか分からないと改めて思いました。これから、親や身近な人に優しく接していきたいと思います。そして、自分の命を大切にしていきたいと思いました。（1年男子）

理不尽に命が奪われてしまうことの悲しさ、残された家族の悲しみなど、私には想像できないほどの気持ちが伝わってきました。命を大切にすることが、とても大事なのだと分かりました。「加害者は1人でも被害者は1人ではない」という言葉が特に心に残りました。これからは、自分の命も人の命も大切にしていきたいと思いました。（2年女子）

（3）「規範意識」に関連する記述

実際に犯罪被害を受けた方の話を聞くのは初めてで、犯罪というのは、自分たちの生活の中でも意外と身近に起こりうることだと感じました。「他人を傷つけてはいけない」とう当たり前のことであっても、それが世の中の人間全員が守れているわけではないので、せめて自分は他人の気持ちを思いやることのできる人になりたいと思いました。私はこの講演会を通して、命の大切さを学び、明日何が起こるか分からない人生で、一日一日を大切に生きていきたいと思いました。（3年男子）

被害者家族がどんな思いをしなければならないのか、少しでも知ることができて本当に良かったです。改めて、誰かを傷つけることの重大性を感じたし、もし自分に何かあった時に、家族や周りの人がどんな思いになるのかを考えることができました。（3年女子）

（4）その他の記述

犯罪によって生活がガラッと変わってしまい、犯罪によって傷つけられるのは1人ではないことを改めて実感した。そして、いつどこで犯罪に巻き込まれるか分からないので、一日一日の生活を大切に、友だちと学校で一緒に授業できていることに感謝したいと思った。犯罪は、たとえ加害者が1人でも、被害者は決して1人ではなく、傷つけられた本人以外にもその人の家族、友だち、恋人などが傷つくことも考えなければならないと思う。今回、犯罪被害の話を聞いて、改めて犯罪の恐ろしさを痛感した。（1年女子）